

1. 評価結果概要表

平成 21 年 4 月 7 日

【評価実施概要】

事業所番号	0171401714		
法人名	有限会社 ウジヤト		
事業所名	グループホーム のぞみ 2号館		
所在地	函館市亀田港町60番23号 (電 話) 0138-43-7001		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年3月19日	評価確定日	平成21年4月7日

【情報提供票より】 (21年 3月 1日事業所記入)

開設年月日	昭和・平成 18 年 2 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 14 非常勤 2	常勤換算 14.3

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円		
その他の経費(月額)	水道光熱費 10,000円 冬季暖房料 (10月～4月) 月 5,000円		
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要 (3月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護 1	1 名	要介護 2	4 名
要介護 3	4 名	要介護 4	4 名
要介護 5	5 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 64.5 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	平山医院・函館医師会病院・なるかわ病院・沢木歯科医院 上磯藤岡眼科・平田皮膚泌尿器科医院・やわらぎ宛上磯
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

函館市港町に北海道大学水産学部があり、その裏側の閑静な住宅街に事業所はある。玄関を入ると癒やしとして飼われている猫が出迎えてくれ、利用者からは「いらっしやい」と大きな声で挨拶を受ける。外部評価は初めてという総合施設長と管理者は真剣に現実を打ち明け、改善に向けての具体的な話し合いを行った。今、取り組んでいることとして、職員の資格取得を推奨し、受験に至るまでの研修時間の調整に配慮し、職員育成に力を注いでいる。施設長、管理者は職員の資格取得の奨励や働きながら学ぶ機会を積極的に提供する事で、職員が利用者尊重を重んじたケアサービス提供に真摯に対応する基礎を学ぶ機会と理解しており、大いに期待する事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 今回は始めてである。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は設立年に行われていたが、外部評価は初めてである。施設長や管理者は、評価の意義の重要性を職員に説明し、日常のケアに活かされるよう話し合いがもたれているが、定期的に自己評価を行ない、内部・外部評価結果を活かした改善の取り組みが望まれる。
重点項目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は3ヶ月に1回実施され、議題として、利用者の受診状況や日々の暮らしぶり、事業所行事の案内などを報告している。事業所の取り組みについて、参加者の意見・要望を伺い、サービスの向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 玄関には重要事項説明書と苦情処理の説明が見易く掲示され、意見箱も設置されている。現在まで、苦情の報告は無いが、家族の来訪時には、何でも話し合える雰囲気づくりに努めている。月1度の報告書類発送時に要望・ご意見用紙の同封を検討しているが、更なる信頼関係を築く機会と捉えている。
重点項目 ③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 月1回、事業所内に於いて「パン教室」を開催し、地元町内会の方々も多数参加し盛況である。又、町内会の催しである絵手紙教室やカラオケ会等は月2回行われ、年行事である夏祭り、新年会にも積極的に参加する等、地域住民との交流は盛んである。
重点項目 ④	

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	総合施設長を始め、各ユニットの管理者は、地域密着型サービスの意義を理解し、地域住民との交流を重視した理恵を、全職員で検討し事業所独自のものとして作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は常に理念の実践に向け、職員に繰り返し話しているが、確認の場を設けていない。	○	簡略化した理念を、職員の名札裏に携帯したり、ユニット会議でも積極的に話し合い、自己意識を高めるよう努力されることを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	月1回、事業所内に於いて「パン教室」を開催し、地元町内会の方々も多数参加し盛況である。又、町内会の催しである絵手紙教室やカラオケ会等は月2回行われ、年行事である夏祭り、新年会にも積極的に参加する等、地域住民との交流は盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は設立年に行われていたが、外部評価は初めてである。職員には評価の意義を具体的に説明し、日常のケアに活かされるよう話し合いがもたれている。	○	総合施設長や管理者は、評価の意義の重要性を職員に説明し、定期的に自己評価を行ない、内部・外部評価結果を活かした改善の取り組みが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1回実施され、議題として、利用者の受診状況や日々の暮らしぶり、事業所行事の案内などを報告している。事業所の取り組みについて、参加者の意見・要望を伺い、サービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	総合施設長がメインとなり、各役所との連絡事項など密に行なっている。福祉事務所員が6ヶ月に1度事業所に定期的に訪問した際に、利用者の介護保険に関する相談事を行い連携が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1度手紙にて、日常の暮らしぶりや健康状態などを写真を添えてお伝えし、金銭出納状況と職員の状況なども報告している。なお、領収書などは家族の来訪時に確認して頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には重要事項説明書と苦情処理の説明が見易く掲示され、意見箱も設置されている。現在まで、苦情の報告は無いが、家族の来訪時などには、何でも話し合える雰囲気づくりに努めている。月1度の報告書発送時に要望・ご意見用紙の同封を検討しているが、更なる信頼関係を築く機会と捉えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット内の異動はあるが、常に職員は行き来していて、利用者とは馴染みの関係が築かれ、ダメージを感じさせるには至っていない。新入職員については、先輩職員が協力し合い、利用者の心身の安定に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	総合施設長は、職員の育成に真剣に向い合い、働きながら資格取得を目的にと取り組んでいる。全職員が各研修会に参加し、ユニット会議に於いて報告し内容の共有を図り、運営に反映させている。新年度は、両ユニットより4名の介護福祉士受験者を予定している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム協議会のDブロックに所属し、研修会、勉強会、交流会など積極的に参加し、ケアの質の向上に繋げている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設長、管理者は入居前面談では、本人・家族の希望・要望などを詳細に伺い、家庭訪問なども重ね、利用に繋げている。事業所内見学時には、職員や他利用者を紹介し、早く馴染んでもらえるよう、家族と相談しながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の意向を尊重し、得意な趣味や活動など、職員や利用者同志が共に学び合い、支え合い、より信頼される関係が構築されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族からの情報により、本人の思いを把握し、希望に沿った対応をしている。意思表示が困難な方には、表情・動作などから真意を推し測るよう全職員で情報を共有し支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	医師の指示を基に、毎日の申し送りや、月1回のユニット会議にて情報を交換し、家族と相談の上、ケアマネージャーを中心にケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月2回、協力医による往診があり、その都度、変化に気付いた時に家族と話し合い、双方納得の上見直しが行なわれ、新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の日々の体調に合わせ、希望に沿い支援している。理・美容院への送迎、お墓参り、自宅への送迎、他病院での受診の支援等、事業所専用車5台を活用し対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が入居前よりのかかりつけ医の受診を大切にしている。特に希望のない場合は、家族と相談の上、協力医療機関での受診を行っている。協力医療機関による月2回の訪問診療体制を確保している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人・家族と終末期のあり方について話し合っている。事業所としては、すでにターミナルケアに取り組んでおり、医師、家族、施設長、管理者、職員が一丸となり、終末期の対応について更なる検討を続け、方針の共有やその支援に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者は人生の先輩であり、尊敬の念を持ち、特に、個人の性格を把握しながら、言葉づかいなどに配慮している。個人情報等のファイルは、鍵のかかる書庫に厳重に保管され、職員はこれを十分認識している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、利用者の当日の体調などに合わせ、希望など取り入れ、本人のペースを大切にした支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者も職員も一緒に調理し、盛り付け、片付けなど、家庭的な雰囲気であった。利用者の好みに合わせ、ユニット共同で食材の購入に当たり、複数の目で新鮮な品選びをしている。正月に鯨汁をつくったり、この地域に受け継がれてきた味を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日対応できる体制が整っていて、本人の希望に合わせて支援している。時間帯、湯温など、自由に選択出来る。また、意思疎通の心配な方には、体調、表情など観察しながら、無理強いのない支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人・家族より聞き取りをした生活歴と、日々の暮らしぶりから把握した趣味、また、力量に見合った役割など、張り合いに繋がる支援をしている。	○	職員が提供している趣味の支援や、レクリエーションなど、利用者に合わせ最善の努力をしているが、マンネリ化してはいないか、全職員でアイデアを出し合い、検討し工夫される事を期待する。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換と筋力低下防止の為に、散歩、ドライブと戸外での楽しみに配慮した支援を行っている。利用者それぞれの希望を適えられるように、専用車5台を活用し対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間、家族面会終了時には防犯の為に施錠をしているが、朝、早番出勤前には解錠している。日中は、利用者にストレスを感じさせない様に、鍵をかけないケアを実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下に、日中・夜間帯を想定した年2回の避難訓練が行われている他、自己訓練も実施しているが、地域住民の参加には至っていない。	○	現在、町内会との交流も深まっており、次回の運営推進会議には、町内会長と相談の上、地域住民の協力を得て連携を図りながら、災害に備えた実践的な訓練が実施される事を期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面は平山医院の栄養士より指導を受け献立表を作成している。偏りの無いバランスのとれた内容だが、食べる量に個人差があり、水分摂取量と共に記録し、医師の往診時の参考資料になっている。1日の水分摂取量は1200cc～1500ccを目途にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	東南向きの明るい居室、車椅子対応の広いトイレ、廊下。居室の全体を見渡せる対面式の台所、壁には大きな柱時計、手づくり暦、写真、絵等生活感や季節感を採り入れ工夫された共用空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に掃除された居室には、自宅に於いて使われていた馴染みの家具が持ち込まれ、又、大切な人の写真の前に、お水や菓子などが供えられたり、利用者が居心地よく、安心して生活出来る居室作りを支援している。		

※  は、重点項目。